

GRADUATE SCHOOL OF URBAN SOCIAL AND CULTURAL STUDIES

横浜市立大学大学院
**都市社会文化
研究科**



GUIDE BOOK 2024

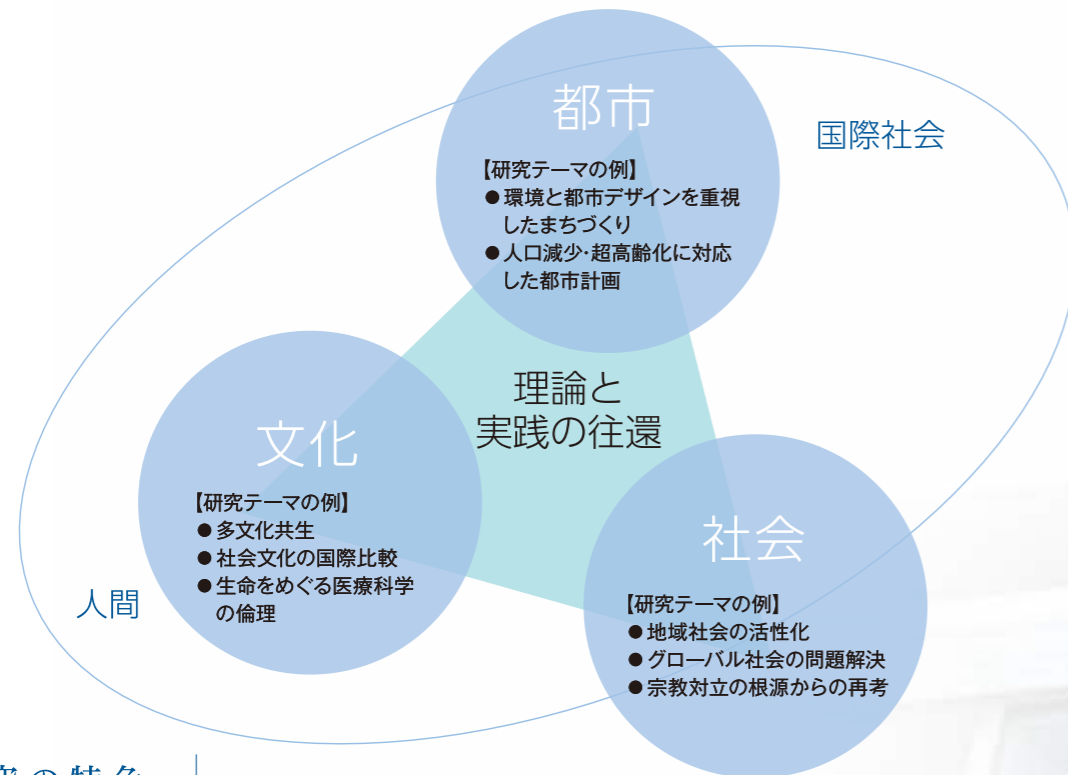
YCU
横浜市立大学

本研究科の研究とは

主要な研究領域である「都市」「社会」「文化」それぞれの研究ディシプリンを身に付けられる研究科です。また、それらの学際的融合領域に、人間から国際社会まで対象のスケールを問わず、「理論と実践を往還」しながら取り組むことができます。

研究科の理念

人間や国際社会に対する深い理解に基づく、
現代都市社会の問題解決と新たな理念の創出



研究の特色

様々な社会問題・研究課題に対して、学際的なアプローチによって取り組んでいます。

研究 テーマの例

- ・環境と都市デザインを重視したまちづくり
- ・人口減少・超高齢化に対応した都市計画
- ・地域社会の活性化
- ・グローバル社会の問題解決
- ・宗教対立の根源からの再考
- ・多文化共生
- ・社会文化の国際比較
- ・生命をめぐる医療科学の倫理

都市社会文化研究科のあゆみ

- 1949 (昭和24)年 新制大学として横浜市立大学設置
- 1993 (平成5)年 大学院国際文化研究科(博士前期課程)設置
- 1996 (平成8)年 大学院国際文化研究科(博士後期課程)設置
- 2005 (平成17)年 大学法人化(公立大学法人横浜市立大学発足)
大学院国際総合科学研究科 設置(国際文化研究科、経営学研究科、経済学研究科、理学研究科を統合)
- 2009 (平成21)年 大学院国際総合科学研究科を再編し、都市社会文化研究科を設置(生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科を同時に設置)

都市社会文化研究科のめざすもの

都市社会文化研究科は、国際都市横浜の公立大学に相応しい大学院として2009(平成21)年4月に開設されました。前身の国際文化研究科、国際総合科学研究科国際文化研究専攻の時期から通算すると、すでに4半世紀の実績を持ち、多くの院生を社会に送り出してきました。

本研究科は、急速に変化する現代社会の諸問題について、都市・地域・国際社会の課題を中心に、人間と文化に対する深い理解から得た着眼点を踏まえて実践的に取り組むことのできる人材の育成を目指しています。

ICT(情報通信技術)は世界を瞬時につなげ、AI(人工知能)やDX(デジタルトランスフォーメーション)は、グローバル化とともに、これまでの人間観を大きく変えました。現代の都市社会に生起する複雑な課題に対し、構造的に掘り下げて把握し、長期的展望をもって解決の方向を見出すためには、特定の専門分野を踏まえた上で、その枠を超えた領域横断的・学

際のアプローチが求められます。また、具体的・現実的課題に取り組むにあたっては、人文科学の学問成果による人間の洞察にもとづく課題の検証や、課題の意味を解釈するための着眼点が必要となります。

本研究科は、このような理念のもと、現代社会におけるさまざまな課題について、学術的な観点による課題解決や問題の解釈を可能とする、多分野融合型の教育・研究体制を備えている点が大きな特徴です。

また、社会人の積極的な受け入れに取り組むとともに、地域社会における課題解決の実践力や問題意識を高めるための、産学官や地域社会と連携した教育プログラムや、学際性豊かな研究会を開催し、院生と教員、ゲスト講師との活発な研究交流を図っています。

本研究科の理念を共有し、広い視野と柔軟な思考力をもつ意欲あふれる学生のチャレンジを期待しております。

都市社会文化研究科長 松本 郁代



現代都市と社会から発想する。

教育の特色

- 多分野融合型のカリキュラム編成
- 地域社会との連携
- 社会人の積極的受け入れ

【入学定員と学位】

	入学定員	学位
博士前期課程	20名	修士(学術)
博士後期課程	3名	博士(学術)

【カリキュラム構成と修了要件】

博士前期課程	次のような科目群によって構成され、2年間で合計30単位取得して修了します。	
	総合研究科目(2単位)	学外講師を招聘し、実践的関心の喚起を図る科目
	特講科目(16単位)	専門性を深める講義科目
	演習科目(8単位)	修士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目
	修士論文(4単位)	修士論文の提出により単位を取得
* なお、社会人学生を対象に、演習・修士論文の代わりに特別研究・研究報告書によって修了する方式もあります。		
博士後期課程	次の科目群から3年間で合計20単位取得し、博士論文審査を経て修了します。	
	多分野交流演習(2単位)	総合的・学際的視点の獲得を図る演習科目
	攻究科目(6単位)	各分野の専門性を深めるための講義科目
	演習科目(12単位)	博士論文作成に向けた研究指導を行う演習科目

積極的に行われるフィールドワーク



都市社会文化研究科では、各教員の専門分野に即して、現場で学ぶ機会を大切にしています。また、学際的で社会人や留学生も多いことから、多様な立場での学生間の議論も活発に行われています。



履修のイメージ

目的や研究上の関心に応じた授業科目の組み合わせが可能です。下記は博士前期課程での履修例です(科目名一覧は6ページ)。

グローバルキャリアをめざして学ぶ場合	社会福祉を学び、研究報告書で修了する場合	まちづくりを学ぶ場合
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:1 ● 特講科目(16単位) 社会文化論特講:1(アジア文化論)、5(文化人類学) / 海外地域論特講:2(アジア地域論)、3(アジア社会史)、4(イスラム地域論) / 国際関係論特講:1(グローバル政治論)、2(グローバル経済論)、4(途上国開発論) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:3 ● 特講科目(20単位) 人間科学論特講:2(教育心理学)、3(臨床心理学)、4(現代哲学) / 言語文化論特講:1(コミュニケーション論) / 都市・環境政策論特講:2(地域ガバナンス論) / 地域社会論特講:1(地域精神保健論)、2(ライフコース論)、5(福祉社会論)、6(社会理論) / 社会経済論特講:1(NPO論) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合研究科目(2単位) 総合研究科目:1 ● 特講科目(16単位) まちづくり論特講:1(都市計画論)、3(市民まちづくり論)、5(防災まちづくり論)、6(不動産マネジメント論) / 都市・環境政策論特講:1(SDGsと都市環境論)、2(地域ガバナンス論)、3(都市政策論)、5(地方自治論)

※ この他、演習科目(8単位)および修士論文(4単位)(修士論文で修了する場合)、特別研究科目(8単位)(社会人が研究報告書で修了する場合)の履修が必要です。

修士論文テーマ例 2022年度修了者

- ・ 都市部における子どもの外遊び環境に関する研究
— 中国・吉林市の小中学校を事例に—
- ・ マンション管理組合の監査業務への専門家活用に関する研究
- ・ 大規模・超高層建築物が集積するエリアにおける消防力に関する研究
— 消防到達時間算定における「高さ方向」の扱いに注目して—
- ・ The Rift in the Japanese Canadian Redress Movement and the Interpretation of Issei's Silence: How to Make the Past Alive in the Present
- ・ 『ヤング・ジャパン』におけるJ・R・ブラックが捉えた幕末・明治初期の日本の変化
— 変化の過程にある「若き日本」に見出す価値と可能性—
- ・ 日本語における男性配偶者に言及する指示表現の使用実態
- ・ 在日中国人のスキー場選択行動と訪問経験による差異
— 訪日中国人により魅力的なスキー場を目指して—
- ・ クチコミの言語解析による中国人観光客の観光資源の評価に関する研究
— 横浜市内の観光資源を対象として—
- ・ 住・街区形態が学童期の子どもの社会関係資本と地域愛着に及ぼす影響について
— 都市部既成住宅地と都市部計画的積層住宅団地を比較して—
- ・ アーティスト・イン・レジデンス事業がアーティストと周辺地域に与える影響についての研究
— 初黄・日ノ出町地区と黄金町AIRを事例として—
- ・ 空き家バンクにおける民間活用に関する研究
— 神奈川県を事例として—
- ・ 外食ローカルチェーンの立地展開と地域住民の生活様式
— 香川県の讃岐うどんチェーンを事例に—

YCU Minatomirai Satellite Campus



みなとみらいサテライトキャンパス

2020年4月に横浜ランドマークタワー7階産学連携イノベーション拠点に開設された「横浜国立大学みなとみらいサテライトキャンパス」でも授業を行うことで、金沢八景キャンパスとは異なる環境での学びを実現しています。



活発な学際的議論



学外向けのアドバンスドエクステンション講座(公開講座)などの特別講義も行っています。第一線で活躍するゲスト講師と担当教員との対談形式で行うことで、現代社会が抱える様々な課題について、実践と理論の両輪で理解を深めることができます。



オンラインを活用した授業でも、学生間の活発な議論を促しています。

持続可能な地域社会プログラム (平日夜間 + 土曜日開講プログラム)

ポストコロナの時代に求められるあらたな人材育成として、幅広い基礎学力に支えられているからこそその実践を大切に、社会で、そして地域で実践できる人材の育成を目指したプログラムを2021年4月よりスタートしました。

プログラムの特徴

- 人文学、社会科学、法学、社会学、人間科学など様々な分野を学際的に学ぶ
- 現代社会の問題を知り、解決・予防する方策を学び、実践する力を身に付ける
- 原則、平日は夜間の遠隔授業、土曜日等は午前・午後の対面授業でプログラム修了

目指す地域社会

- 有限な資源を大切に、誰もが安心して安全に暮らせる地域社会
- 市民、行政、民間企業、NPO、専門家等がそれぞれの責任を果たし、連携により築き上げる地域社会
- 文化、芸術、歴史等、地域特性を活かした、グローバル社会に対応した地域社会
- 理論に基づいた知見を基に実践し、暮らしの質の向上を目指す地域社会

実践的な研究会の開催

超高齢社会横断的研究会(社会学、建築学、医学、不動産学等、多様な視点から学際的に超高齢社会を考える)をはじめ、PFI等の新たな公民連携を考える研究会、ジェンダー研究会など、研究科の教員・学生が参加できる学際的研究会の開催を予定しています。

授業科目

※前期・後期課程とも、指導教員からの研究指導を受けます(演習・特別研究(前期)、研究演習(後期))。指導を担当可能な教員は教員紹介を参照してください。
※この情報は、2023年度のものであります。開講状況は変更になる場合があります。

博士前期課程

総合研究科目

2023年度テーマ例

- ・ SDGsの基礎と実践
- ・ 研究と方法論
- ・ 科学的研究法と測定法
- ・ 都市デザインと創造都市

特講基礎科目

人間科学論特講

現代倫理学 教育心理学
臨床心理学 現代哲学

言語文化論特講

コミュニケーション論 アメリカ文化論
ヨーロッパ文化論 イギリス文化論
日本文化史 応用言語論 日本文化論

社会文化論特講

アジア文化論 多文化共生論
エスニシティ文化論 欧米社会論
文化人類学 日本社会史

まちづくり論特講

都市計画論

都市・環境政策論特講

SDGsと都市環境 地方自治論

国際関係論特講

途上国開発論

特講展開科目

まちづくり論特講

都市解析論 市民まちづくり論
都市デザイン論 防災まちづくり論
不動産マネジメント論 都市空間形成論

都市・環境政策論特講

地域ガバナンス論
都市政策論 環境論
公共政策論

地域社会論特講

地域精神保健論 ライフコース論
教育行政論 メディア社会論
福祉社会論 社会理論

社会経済論特講

NPO論 共生社会の地理学
都市ビジネス論 産業立地論
観光政策論

海外地域論特講

文化交流史 アジア地域論
アジア社会史 イスラーム地域論
欧米社会史

国際関係論特講

グローバル政治論 グローバル経済論
国際機構論 グローバル平和論
国際法

博士後期課程

多分野交流演習

人間科学論攻究(1~8)

都市科学論攻究(1~6)

地域社会文化論攻究(1~9)

国際社会論攻究(1~7)

都市社会論攻究(1~8)

研究演習

SDGsのコンセプトに対応する授業



	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 持続可能な開発のための健康と福祉	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を實現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
中西 正彦											●						
後藤 寛			●	●				●	●	●	●	●					
三輪 律江			●	●	●						●						●
鈴木 伸治											●						
石川 永子			●	●							●		●				●
齊藤 広子											●	●					
青 正澄	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新垣 二郎											●						●
大島 誠												●					
阿内 春生				●													
浮田 徹嗣	●		●														
陳 礼美	●		●		●					●	●						
角田 隆一				●						●		●					●
渡會 知子	●			●	●					●	●						
有馬 貴之			●					●	●	●	●	●		●	●		●
影山 摩子弥																	●
乙坂 智子													●				
小野寺 淳	●	●						●	●	●							
柿崎 一郎				●													
山崎 和美				●	●					●							●
山根 徹也	●									●							●
上村 雄彦	●	●				●	●		●	●			●			●	●
高橋 力也	●	●	●	●					●	●			●	●	●	●	●
吉田 栄一	●	●						●	●								●
有馬 斉																	●
山田 剛史				●													
佐藤 響子				●	●												
庄司 達也				●	●					●							●
土屋 慶子				●	●												
中谷 崇	●			●	●												●
松本 郁代					●					●	●						●
加藤 千博					●		●			●							
滝田 祥子				●	●					●							●
坪谷 美咲子	●		●	●	●			●	●	●						●	●
板垣 明美	●	●	●		●			●	●	●		●		●	●		

修了後の進路 | 2012年度～2022年度修了者

就職	進学
株式会社大手広告通信社 積和不動産株式会社 認定NPO法人日本ハビタット協会 関西エアポート株式会社 株式会社リクルートキャリア テルモ株式会社 日本テトラパック株式会社 株式会社シーアイエス 株式会社日本取引所グループ マンパワーグループ株式会社 株式会社日立製作所 株式会社毎日新聞社	神奈川県庁 神奈川県教育委員会 横浜市役所 学校法人片柳学園 株式会社ワークスアプリケーションズ 株式会社良品計画 株式会社タカハ都市科学研究所 逗子市役所 三井住友建設株式会社 西日本旅客鉄道株式会社 国立大学法人東京外国語大学 東京医療保健大学
横浜市中央児童相談所 学校法人中内学園流通科学大学 京急サービス株式会社 株式会社小宮山土木 アビームコンサルティング株式会社 株式会社ザイマックスアルファ 東洋化学株式会社 パーソルプロセス&テクノロジー株式会社 ディップ株式会社 公立大学法人横浜市立大学 株式会社電通西日本 株式会社読売広告社 など	横浜市立大学大学院 名古屋大学大学院 上智大学大学院 立教大学大学院 Goldsmiths, University of London など

活躍する修了生

多様性が尊重され、持続可能な社会の実現に向けて
将来活躍する準備ができる環境



研究テーマ：東アジアの安全保障
国際政治を研究する上村ゼミに所属していました。ゼミではグローバルガバナンスや、世界の富の偏在をいかに解消していくかなど地球規模課題について皆で研究していました。私個人の研究テーマは東アジアの安全保障政策、具体的には日本と朝鮮戦争の関係、近年のパワーバランスの変化に伴う世界秩序の変化について研究していました。また、米国は深く東アジアの安全保障に関わっていますので、歴史的経緯やその時々の方針について、米国のナショナルアーカイブで分析することも多かったです。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。
博士前期課程を修了後、2年間の民間企業での勤務と海外大学院留学を経て、現在は外務省専門調査員(政務担当)として、在シンガポール日本国大使館で働いています。仕事内容は、シンクタンクや有識者等との意見交換及び連携して情報収集をすること、そして、日本の外交政策の発信のために、セミナーや講演会の企画等を行っています。私の所属していた上村ゼミでは、フランス出身のギミール先生や当時、米国フルブライト招聘准教授として教鞭を取られていたフィルナー先生を交えてゼミが行われていました。仕事柄英語を使うことが非常に多いのですが、海外出身の先生方と喧々諤々議論し、多様な意見を学んだ経験は今でも仕事に役立っていると思いますし、YCUで学ぶことの大きな魅力だと思います。また、当時は、負荷のかかる作業でしたが、修論を英語で執筆した経験も今の仕事にかなり活かされていると思います。YCUにはWriting Centerがあり、サポート体制も整っています。

コロナ禍においても一歩先に進むために

研究テーマ：都市部高齢者における家庭外共食の成立要件に関する研究
家庭外共食に着目し、一般高齢者におけるまち資源との関わりを互助・共助の関係構築という観点から追及した研究です。共食(きょうしょく)とは、人と共に食事をするものですが、家庭外共食は食の社会的側面を意味します。研究では、修士課程(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻)で把握した一般高齢者の食への価値観や健康状態の知見を基盤に、地域に存在する家庭外共食を社会資源として捉えるため、その指標探索をし、GISを用いた資源配置の分析等を実施しました。これまで取り組んだ研究の一部は、農林水産省の共食政策エビデンスとして採用されました。

現在の仕事内容や大学院での学びが活かされていると感じる点、当研究科の魅力を教えてください。
私の基盤学問である看護学は、個や環境に迫っていきませんが、環境を捉える視座が弱点だと感じていました。小家族化や近隣支援体制の脆弱化が進む日本において、新しい着眼点で高齢者ケアを推進していく必要がありますが、私の専門である医療職としての限界に至り、悩んでいたところ、指導教官(三輪律江先生)のご専門である乳幼児生活圏やまち保育の考え方に出会い、その知見を援用するためご相談し、異分野の私を受け入れていただきました。テーマであった「家庭外共食」という概念を多角的に捉え、医療・保健領域だけでなく他分野も横断的に捉えて発信していく必要があるという着想において、大きな力を得たと感じています。多分野の諸先生の前で説得力のある説明を求められるという経験は、大変貴重でした。都市社会文化研究科において、批判的思考も教えて頂きました。



山之井 麻衣
博士後期課程 2021年度修了
現在：学校法人青葉学園 東京医療保健大学 医療保健学部 講師

教員紹介

より詳細な情報は、横浜市立大学大学院都市社会文化研究科WEBサイトをご覧ください。
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/staff/index.html>



まちづくり論特講



中西 正彦

NAKANISHI Masahiko

【研究分野】
都市計画、住宅政策

都市計画の制度・計画論の観点から、現代の都市課題である構造再編や住宅地再生等の研究および実践活動を行っている。学生たちには、実際の街に連れ、理論と実際の両面からの解決策導出を指導している。

【担当科目】

[博士前期課程]都市計画論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻1、研究演習



後藤 寛

GOTO Yutaka

【研究分野】
地理情報システム(GIS)、都市計画・都市解析

都市における面的な空間構造の分析・比較研究、さらには3次元GISのシステム構築と、それによるマイクロエリアマーケティング手法の開発など、さまざまな研究成果と研究方法を伝える。

【担当科目】

[博士前期課程]都市解析論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻5、研究演習

三輪 律江

MIWA Norie

【研究分野】

建築・都市計画、参加型まちづくり、こどものための都市環境、環境心理学

各地で都市が縮小していく中、世代を超えた居住を実現するまちづくりを探索。フィールドワーク、セミナー活動など、行動力を発揮した研究活動を展開している。

【担当科目】

[博士前期課程]市民まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻1、研究演習



鈴木 伸治

SUZUKI Nobuharu

【研究分野】

都市デザイン、歴史的環境保全、創造都市

都市空間の魅力を引き出す景観、歴史を生かしたまちづくりなど、都市デザインのあり方について研究に取り組む。近年は創造都市関連の研究、アジア都市における歴史的環境保全の研究へも幅を広げている。

【担当科目】

[博士前期課程]都市デザイン論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻3、研究演習



地域社会論特講

阿内 春生

AUCHI Haruo

【研究分野】
教育行政学、教育経営学

個人の研究テーマとしては教育政策過程研究、地方議会研究に取り組んできた。その他、共同研究などを通して、学校を中心とした協働関係の構築、教員政策等に関心を持っている。

【担当科目】

[博士前期課程]教育行政論、演習



浮田 徹嗣

UKITA Tetsuji

※2024年度入試は
学生募集停止

【研究分野】

臨床心理学、精神分析学、精神保健学

不登校や引きこもり、子どもの家庭内暴力に対する親の相談に際して、ロールプレイングなどの手法を用いるなど、さまざまな考察をすとともに、精神分析的心理学の再構築を目指す

【担当科目】

[博士前期課程]休講中
[博士後期課程]休講中



陳 礼美

Chen Li-Mei

※2024年度入試
学生募集停止

【研究分野】

社会福祉学(社会老年学)

超高齢社会を迎えた日本では社会保障、社会福祉サービスの諸課題について福祉現場の実践から政策・制度レベルまで現実的且つ持続可能な解決が求められている。社会福祉の理念と価値を大切にしながら、これからの介護・医療・福祉制度の在り方、高齢者とその家族の生活の質とウェルビーイングの研究について取り組んでいる。

【担当科目】

[博士前期課程]福祉社会論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻3



角田 隆一

TSUNODA Ryuichi

【研究分野】

社会学(文化社会学、現代社会論、メディア社会論)

メディア文化、ポピュラー文化、映像文化を事例とした近現代社会学。近年は「写真の社会学プロジェクト」の実践と理論構築も重点的に進めている。

【担当科目】

[博士前期課程]メディア社会論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻6



石川 永子

ISHIKAWA Eiko

【研究分野】

防災・復興のまちづくり、住居学、インクルーシブ防災

地震・水害対策と土地利用、事前復興まちづくり、災害後の住環境(避難所・仮住まい・住宅再建)と被災者の生活や心理、インクルーシブ防災について、フィールドワークや実践を通して研究。

【担当科目】

[博士前期課程]防災まちづくり論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻2



齊藤 広子

SAITO Hiroko

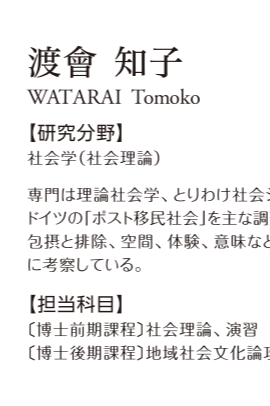
【研究分野】

不動産学、住環境マネジメント学
マンション管理学、すまいとまちのマネジメント

少子高齢化などにより、大きな転換が求められる現在の都市の政策や計画のなかで、住宅地・住宅・マンションなど、住まい・まちが抱える課題を抽出し、総合的、学際的、実践的に解決方法を導き出す研究や実践を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]不動産マネジメント論、演習
[博士後期課程]都市科学論攻6、研究演習



渡會 知子

WATARAI Tomoko

【研究分野】

社会学(社会理論)

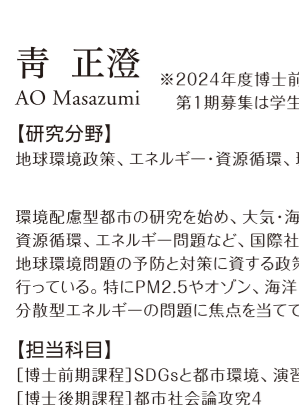
専門は理論社会学、とりわけ社会システム理論。ドイツの「ポスト移民社会」を主な調査対象としながら、包摂と排除、空間、体験、意味などについて理論的に考察している。

【担当科目】

[博士前期課程]社会理論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻9



都市・環境政策論特講



青 正澄

AO Masazumi

※2024年度博士前期課程
第1期募集は学生募集停止

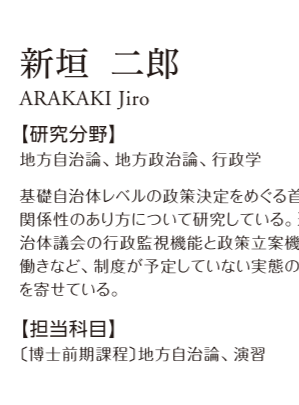
【研究分野】

地球環境政策、エネルギー・資源循環、環境協力

環境配慮型都市の研究を始め、大気・海洋汚染、資源循環、エネルギー問題など、国際社会が抱える地球環境問題の予防と対策に資する政策研究を行っている。特にPM2.5やオゾン、海洋ごみ、分散型エネルギーの問題に焦点を当てている。

【担当科目】

[博士前期課程]SDGsと都市環境、演習
[博士後期課程]都市社会論攻4



新垣 二郎

ARAKAKI Jiro

【研究分野】

地方自治論、地方政治論、行政学

基礎自治体レベルの政策決定をめぐる首長と議会の関係性のあり方について研究している。近年は、自治体議会の行政監視機能と政策立案機能の実際の働きなど、制度が予定していない実態の解明に関心を寄せている。

【担当科目】

[博士前期課程]地方自治論、演習



大島 誠

OSHIMA Makoto

【研究分野】

地方財政論、公共経営論、都市政策論

都市問題の解決主体である地方公共団体の活動について、財政的な側面から研究している。最近では、公共サービスの民営化、PFI(Private Finance Initiative)方式、水道事業、地域環境政策、省エネルギーなどである。

【担当科目】

[博士前期課程]都市政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻8、研究演習



教員紹介

社会経済論特講

有馬 貴之

ARIMA Takayuki

【研究分野】

観光地理学、観光政策論、観光教育

観光施設などのミクロな空間スケールから観光立国といったマクロな空間スケールまで、様々な空間スケールに合わせた状況把握手法、および政策やプランニングに関わるマネジメント手法について研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]観光政策論、演習
[博士後期課程]都市社会論攻7



影山 摩子弥

KAGEYAMA Makoya

※2024年度入試
学生募集停止

【研究分野】

地域CSR論、経済システム論

CSR、NPO・ボランティア組織の役割を中心とした地域経済システム、福祉システムの制度設計、福祉改革の各国別の比較研究などを行う。

【担当科目】

[博士前期課程]総合研究科目4、演習
[博士後期課程]都市社会論攻2、研究演習



国際関係論特講

上村 雄彦

UEMURA Takehiko

【研究分野】

グローバル政治論、グローバル公共政策論、グローバル・ガバナンス論

地球規模課題を解決し、持続可能なグローバル福祉社会を創造するために、グローバル・タックスなど必要な政策とガバナンス、実施主体に関する研究を行っている。(英語での開講可能)

【担当科目】

[博士前期課程]グローバル政治論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻1、研究演習



高橋 力也

TAKAHASHI Rikiya

【研究分野】

国際機構論

国際連盟と国際連合を中心として、国際機構がどのような発展を遂げ、現代国際社会に及ぼす影響を与えているかという問題について、主に歴史的な手法を用いて研究している。

【担当科目】

[博士前期課程]国際機構論、演習



海外地域論特講

乙坂 智子

OTOSAKA Tomoko

【研究分野】

中国前近代政治史

おもに13世紀から17世紀にかけての中国とチベットとの関係を研究。当時の中国域においてチベット仏教が政治的に重視された理由などを考察。

【担当科目】

[博士前期課程]文化交流史
[博士後期課程]休講中



小野寺 淳

ONODERA Jun

【研究分野】

都市地理学、経済地理学、中国研究

地理学的アプローチによって、現代アジアのダイナミズムを考察する。理論的な検討を深めるとともに、フィールドワークによる資料収集や現地調査も行い、実証的な研究へと昇華することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア地域論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻4、研究演習



吉田 栄一

YOSHIDA Eiichi

【研究分野】

開発地理学、アフリカ研究、都市研究、開発援助研究

途上国の地域開発(都市・農村)とその担い手(アクター)に関する研究。都市空間における社会的マイノリティに関する研究。

【担当科目】

[博士前期課程]途上国開発論、演習
[博士後期課程]国際社会論研究2、研究演習



人間科学論特講

柿崎 一郎

KAKIZAKI Ichiro

【研究分野】

タイ地域研究、インドシナ交通論

交通という視点からタイを中心とする東南アジア大陸部の地域像の変容を解明する研究を行う。地域研究の手法で対象地域を多角的に研究することを重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]アジア社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻4、研究演習



山崎 和美

YAMAZAKI Kazumi

【研究分野】

イラン近現代史(女性史、教育史)
イスラーム地域(中東・北アフリカ・カフカス・中央アジア・南西アジアなど)研究

イランなどイスラーム世界の教育・女性・家族・子どもをめぐる諸問題について考察する。近現代イスラーム世界に関心を持つ学生が優れた論文を執筆できるよう指導する。

【担当科目】

[博士前期課程]イスラーム地域論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻7



有馬 斉

ARIMA Hitoshi

【研究分野】

倫理学

終末期医療の倫理問題(安楽死、尊厳死の是非)などを中心に、生命倫理、応用倫理学の研究をしています。講義や演習では、主に重要文献の輪読とディスカッションを行います。

【担当科目】

[博士前期課程]演習
[博士後期課程]人間科学論攻6、研究演習



山田 剛史

YAMADA Tsuyoshi

【研究分野】

教育心理学、心理統計学、教育評価・測定

一事例実験データへの統計的方法の適用、一事例実験のメタ分析の理論と応用、項目反応理論の教育研究への応用、文系学生のための心理統計教育、反転授業などアクティブラーニングの評価。

【担当科目】

[博士前期課程]教育心理学、演習
[博士後期課程]人間科学論攻3、研究演習



山根 徹也

YAMANE Tetsuya

【研究分野】

西洋史

ヨーロッパ、特にドイツ近現代史を専攻。近代市民社会の形成過程において、社会構造と統治形態が変化する中、支配層と民衆がどのような動きをしていたかなどを調査・分析研究を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]欧米社会史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻5、研究演習



教員紹介

言語文化論特講



佐藤 響子

SATOH Kyoko

【研究分野】

社会言語学

コミュニケーション活動の諸相を談話分析、言語とジェンダーの視点から考察する。理論とデータを往復しながら言語使用の背後にある規範、社会のありようなどを考える。

【担当科目】

[博士前期課程]コミュニケーション論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻5、研究演習



庄司 達也

SHOJI Tatsuya

【研究分野】

日本近代文学

芥川龍之介をはじめとする大正期文学について、また、出版メディアと作家、読者、文学の関係性について研究。素朴な疑問や発想を侮らず、発見や気づきを大切に研究態度を重視する。

【担当科目】

[博士前期課程]日本文化論、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻1、研究演習

土屋 慶子

※2024年度入試は
学生募集停止

TSUCHIYA Keiko

【研究分野】

応用言語学、医療コミュニケーション、異文化コミュニケーション

語用論等の言語理論を応用し、社会的課題を読み解く。近年は、チーム医療や多言語コミュニケーションの場にて、人々がことばや視線、ジェスチャーなどマルチモーダルな資源を用い、いかに他者との共同行為を行っているのかに注目している。

【担当科目】

[博士前期課程]応用言語論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻7



中谷 崇

NAKATANI Takashi

【研究分野】

現代アメリカ文学

アメリカ文学、特にWilliam FaulknerおよびJohn Updikeを中心とした現代(第一次世界大戦以降)の小説、批評理論、編集文献学。制度としての「文学」を問い直すところにこそ文学はあると考えている。

【担当科目】

[博士前期課程]アメリカ文化論、演習
[博士後期課程]人間科学論攻8



加藤 千博

KATO Chihiro

【研究分野】

イギリス文学、文芸表象論

近現代の英文学・思想などのテキスト考証を通して文芸表象の諸問題を探求する。特にイギリス・ユートピア文学をエコロジーの観点から、英国文化をカルチャー・スタディーズの観点から考察する。

【担当科目】

[博士前期課程]イギリス文化論、演習



松本 郁代

MATSUMOTO Ikuyo

【研究分野】

日本文化史

日本における文化・思想史の研究を行う。特に中世の歴史史料や絵画、文学や聖教資料などの分析を通じてどのような時代的特質が見出されるのか、多角的な視点から考察する。

【担当科目】

[博士前期課程]日本文化史、演習
[博士後期課程]地域社会文化論攻8、研究演習

社会文化論特講



滝田 祥子

TAKITA Sachiko

【研究分野】

社会学

国境を超えた人の移動を社会的に分析し、多文化共生の可能性を探る。エスニック・マイノリティの記憶の構造への関心から、個人が協働して社会を築いていく共生のあり方を模索する。

【担当科目】

[博士前期課程]多文化共生論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻3、研究演習



坪谷 美欧子

TSUBOYA Mioko

【研究分野】

社会学

国際移民の社会学の中でも世界に広がる中国人の移動現象を中心に、移民集団のナショナル/エスニック・アイデンティティについての研究を行う。

【担当科目】

[博士前期課程]エスニシティ文化論、演習
[博士後期課程]国際社会論攻5、研究演習

板垣 明美

ITAGAKI Akemi

【研究分野】

医療人類学、舞踊人類学、生態人類学

マレーシア、バトナム、日本をフィールドに各地の文化を含む生態系とその持続性を支える仕組みを時間構造、社会構造、癒し、身体技法、神話などから総合的に検討。ボールルーム・ダンスの歩行と日本人の歩行について3次元動作解析を用いた比較研究も進めている。

【担当科目】

[博士前期課程]文化人類学、演習



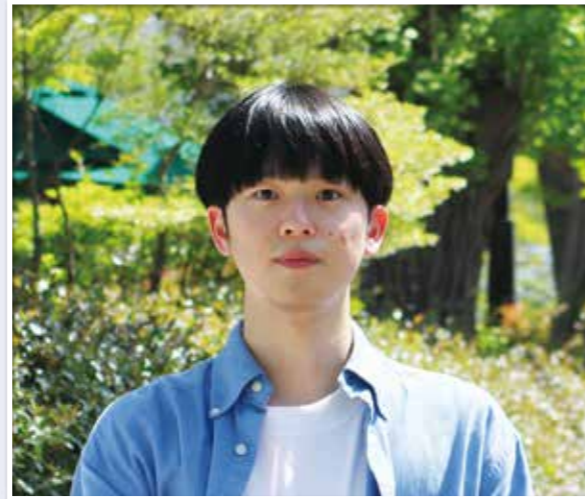
在学生からのメッセージ

実践的な学びで自身の視野を広げられる場所

富吉 陸 博士前期課程2年 東京都立大学都市環境学部 卒

私は他大学を卒業し、本研究科へ入学しました。大学院進学を決めた理由は学部で得た基礎的な知識をもとに、より広い視点から自身の専門性を高めたいと考えたからです。中でも本研究科は、実践的な学びの機会が多い点に魅力を感じました。実際に入学後は授業や研究室などで、先進的な事例や第一線で活躍されるゲスト講師の方のお話を聞く機会が多く、自身の視野を広げられていると感じています。また共に学ぶ学生に異なる背景を持つ方が多いことも本研究科の特徴で、学生同士の交流からも新しい発見があります。

このような環境で学びを深めたい方に、是非お勧めしたい研究科です。



研究テーマ:持続的な廃校活用に向けたプロセスに関する研究 一転用する用途に着目して一

2022年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2					
3	都市・環境政策論特講1 (対面)				総合研究科目1: 前期前半 (対面)
4					総合研究科目1: 前期前半 (対面)
5					
6	まちづくり論特講5 (ハイブリット)	まちづくり論特講4 (ハイブリット)			
7	都市・環境政策論特講5 (オンライン)	演習I (対面)			

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					まちづくり論特講3: 前期前半 (対面)
2					まちづくり論特講3: 前期前半 (対面)
3					まちづくり論特講6: 前期前半 (対面)
4					まちづくり論特講6: 前期前半 (対面)
5					
6		都市・環境政策論特講3 (オンライン)			
7	まちづくり論特講1 (ハイブリット)		演習II		

「没頭」出来る時間を楽しめる大学院生活

岩田 直人 博士前期課程2年 横浜市立大学国際総合科学部 卒

私は2021年にYCUの学部を卒業し、1年間の社会人経験を経て、今は社会人大学院生としてまちづくりを専攻しています。特に妊娠中の母親が自身の住む地域や人と繋がるにはどういった“仕組み”があれば良いのかに関心を持っており、子育て支援の現場の訪問・調査活動、学会・研究会への参加を通じて自身の学びを深めています。そんな社会人大学院生である私が思うYCUの魅力は、「食らいつけば丁寧な指導してくださる先生方」と「3年以上在籍する場合の授業料の減免制度」です。仕事と学業の両立は時間の確保が難しい時もありますが、このような魅力もあり安心して「没頭」したいことに「没頭」できています。社会人でも妥協せず学べるYCUへ是非。



研究テーマ:つどいの広場と助産所の連携が胎児期の母親に与える影響に関する研究

2022年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					総合研究科目 (対面)
2					総合研究科目 (対面)
3					
4					
5					
6		まちづくり論特講5 (オンライン)			
7	都市・環境政策論特講5 (オンライン)		演習I (ハイブリット)		

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					まちづくり論特講3 (対面)
2					まちづくり論特講3 (対面)
3					まちづくり論特講6 (対面)
4					まちづくり論特講6 (対面)
5					
6		都市・環境政策論特講5 (オンライン)			
7	都市・環境政策論特講3 (ハイブリット)		演習II (ハイブリット)		



多様なプログラムによる思考力・研究力の養成と視野の拡大

翟 妹 博士前期課程2年 吉林大学商学部 卒

学部時に「ライフワークバランス」というテーマで研究し、卒業論文を書きました。実際には、世界の多くの人々が生きるために、一生懸命働くことが必要で、「ライフ」を犠牲している現実があります。一方、富裕層はゆとりとした暮らしを楽しみ、豊かな生活を送っています。本研究科1年次の授業を通じて、この現実を深く理解することができました。院の授業では、単に知識を学ぶだけでなく、思考力を高めることが求められます。授業では、それぞれの観点についてディスカッションし、先生方からのアドバイスをもちに、自分の研究を順調に進めています。本研究科は、総合的で横断的な内容で多様なプログラムを提供しており、その点も非常に魅力的です。

研究テーマ:「グローバル富裕税」に関する考察—世界の経済格差を改善するために—

2022年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					総合研究科目4: 前期前半 (対面)
2	社会文化論特講6 (対面)			言語文化論特講1 (対面)	総合研究科目2: 前期後半 (対面)
3	海外地域論特講3 (対面)	演習I (対面)		大学院・日本語実践文章表現A★	
4				大学院・日本語実践口頭表現A★	
5					
6					
7					

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2		社会文化論特講3 (対面)			
3		社会文化論特講5 (オンライン)	国際関係論特講1 (対面)		
4			演習II (対面)		
5					
6					
7					

★は(8週オンライン・8週対面)



少人数クラスによるグローバルな手厚い研究指導

莫 勇強 博士後期課程3年 茨城大学大学院人文社会科学部 修士課程修了

他大学の修士課程を卒業し、YCUの博士後期課程に入学しました。入学して一番良かったことは、先生方がとても熱心に指導してくださることです。私は、中国の農民組織について研究しています。授業中にわからないこと等がある時は、丁寧に解説して下さい、自分の研究に対しての他国での事例やその他多方面からのアプローチ方法等をご教授ください。私のような留学生も日本人学生と一緒に授業を受けていますので、討論では、グローバルな意見が広がります。YCUの指導には、様々なバックグラウンドの人々を互いに尊重し合う文化があると思います。そのような環境下で学んだSDGsを自分の研究テーマに取り入れ、今後は持続可能な中国農村組織について研究していきたいと考えています。

研究テーマ:ブランド米に対する農民専業合作社の取り組み

2022年度 前期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2	研究演習III (対面)				
3					
4					
5					
6					
7					

後期時間割

月	火	水	木	金	土
1					
2					
3					
4					
5					
6	都市科学論攻5 (オンライン)				
7			研究演習IV (対面)		

入試情報

学部・大学院構成



2024年度 都市社会文化研究科入試日程

課程	専攻	入学定員	区分	募集人員	出願期間	入試	合格発表	入学手続期間
博士前期	都市社会文化専攻	20	学内推薦	若干名	8月16日(水)~18日(金)	9月16日(土)	9月29日(金)	10月10日(火)~12日(木)
			第1期*	10	8月16日(水)~18日(金)	9月16日(土)	9月29日(金)	10月10日(火)~12日(木)
			第2期*	10	1月4日(木)~9日(火) 必着	2月10日(土)	2月21日(水)	2月26日(月)~2月28日(水)
博士後期		3	※	3	1月4日(木)~9日(火) 必着	1月18日(木) ※書類審査 2月10日(土) ※口述試験	1月26日(金)	- 2月21日(水) 2月26日(月)~2月28日(水)

※出願資格区分は、一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜があります。出願資格に関する詳細は、学生募集要項で確認してください。

選抜方法

課程	試験科目
博士前期課程(第1期・第2期共通)	筆記試験(共通問題・専門科目)及び口述試験
博士後期課程	【第1次選抜】書類審査 【第2次選抜】口述試験



都市社会文化研究科入試結果

〈博士前期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2023年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	6	6	6	6
			第1期*	10	16	14	7	5
			第2期*	10	17	16	8	6
			合計	20	39	36	21	17
2022年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	5	5	5	5
			第1期*	10	22	21	12	10
			第2期*	10	15	15	5	5
			合計	20	42	41	22	20
2021年度	博士前期課程	都市社会文化専攻	学内推薦	若干名	8	8	8	8
			第1期*	10	14	10	5	4
			第2期*	10	17	16	11	9
			合計	20	39	34	24	21

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

〈博士後期課程〉

年度	課程	専攻	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
2023年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	3	3	3	3
2022年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	5	4	3	3
2021年度	博士後期課程	都市社会文化専攻	※	3	6	6	5	5

※全ての出願資格区分(一般選抜/外国人特別選抜/社会人特別選抜)を含みます。

学費

(単位:円)

項目	博士前期課程		博士後期課程		
	市内*2	市外	市内*2	市外	
学費	入学金*1	141,000	282,000	141,000	282,000
	授業料*1	535,800		535,800	
諸会費*3	学術研究会費	2,000		2,000	
	後援会会費	30,000		30,000	
納付金合計		708,800	849,800	708,800	849,800
入学時納付金合計		173,000	314,000	173,000	314,000

*1 入学金・授業料は2023年度の金額です。金額について改定する場合があります。金額が改定された場合は、改定後の金額が適用されます。なお、授業料は分納(5月・10月)です。

*2 「市内出身者」とは、入学の日の1年以上前(2023年4月1日以前)から引き続き横浜市内に本人または扶養義務者が住所を有する者をいいます。

*3 本学の学術・研究・学生生活の充実や福利厚生の上昇を目的とした活動を行う各団体の会費となります。

入試説明会(オンライン)を実施します!

都市社会文化研究科の概要や入試概要についての説明会を年2回実施しております。詳細は都市社会文化研究科のWEBサイトでご確認ください。

	実施予定日	内容(予定)
第1回	2023年5月18日(木)	・都市社会文化研究科の概要 ・2024年度入試概要 ・教員紹介 ・大学院生による院生生活紹介 ・分野別説明 ・入試相談
第2回	2023年11月11日(土)	

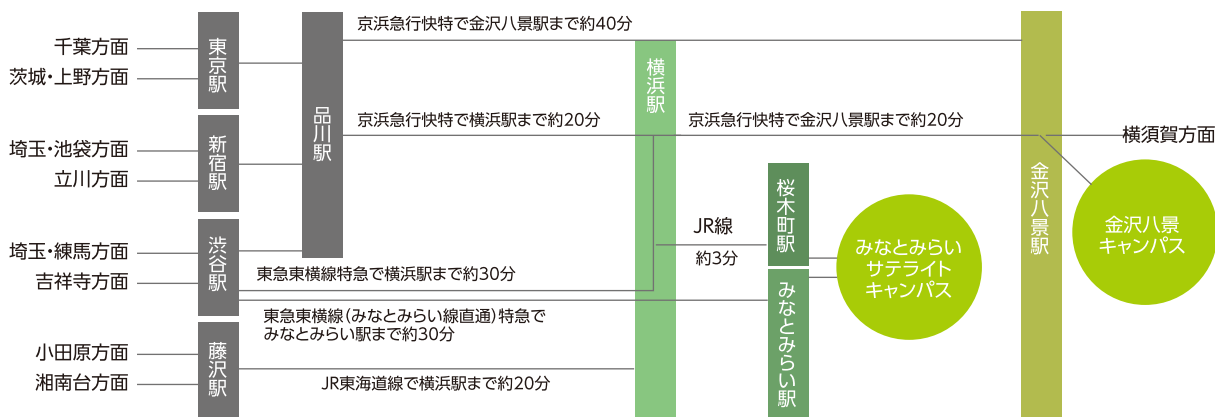
社会人にも学びやすい環境

半数近い授業科目を平日夜間及び土曜日に開講し、また修士論文によらない修了も可能とするなど社会人が学びやすい条件を整えています。

また、資格を満たしていれば、修業年数を超過して一定期間延長して計画的に教育課程を履修できる長期履修制度もあり、積極的に社会人を受け入れています。

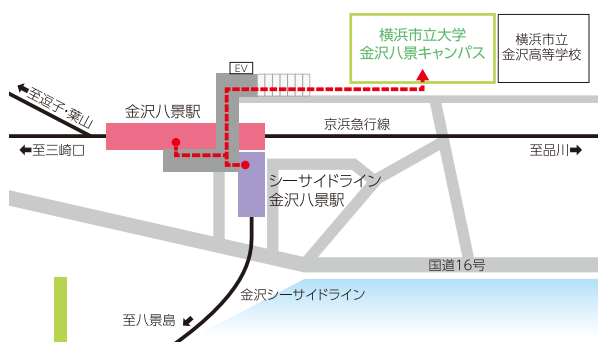


首都圏各地から金沢八景キャンパスおよびみなとみらいサテライトキャンパスまでの交通路線案内



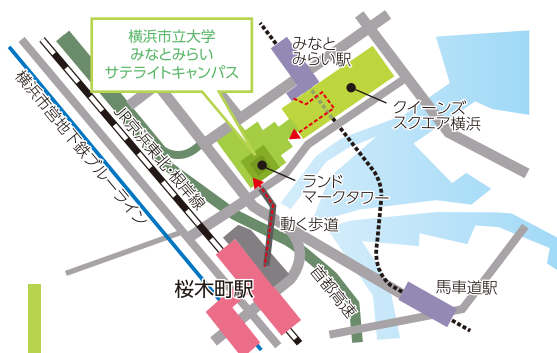
記載の路線は代表的なもので、これ以外にもアクセス方法がございます。

都市社会文化研究科で主に利用するキャンパス



金沢八景キャンパス

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2
京浜急行「金沢八景駅」から徒歩5分
シーサイドライン「金沢八景駅」から徒歩5分



みなとみらいサテライトキャンパス

〒220-8107 横浜市西区みなとみらい二丁目2番1号
横浜ランドマークタワー7階
JR・市営地下鉄「桜木町駅」から動く歩道で徒歩5分
みなとみらい線「みなとみらい駅」から徒歩3分

YCUその他のキャンパス

鶴見キャンパス

〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-7-29
(生命医科学研究科など)

舞岡キャンパス(木原生物学研究所)

〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町641-12
(生命ナノシステム科学研究科など)

福浦キャンパス・附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9
(医学研究科など)

YCU
横浜市立大学

横浜市立大学大学院
都市社会文化研究科

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

TEL:045-787-2055 FAX:045-787-2057

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/urban/index.html>

